

# もりや里山新聞

21/11/6

【土曜日】

発行

守谷里山ネットワーク

徹底し、畦道の拡幅補強、木道の補修なども行いました。また楽しく遊べる場所として、上総堀の水源を活用し、里山の竹材やシートを加工して「湧水プール」や「ソーメン流し」の施設を整備しました。当初は地域の子供会等の招待を予定していましたが、人数が集まるイベントは中止して、家族ごとの小人数での使用に開放することとなりました。



## 1. コロナ禍の里山

令和三年はコロナが数波にわたって繰り返しながら、少しずつ終息の気配も見えてきました。春の田植えはその隙間で学校などの行事ができるケースもありましたが、夏場はまた第5波が襲来して厳しい状況となりました。そんな中で子供たちは長い夏休みとなりましたが、外出自粛で遊びに行き、場所

も制限されていきました。

ただ住宅地に隣接する里山には、親子で訪れる家族が増えてきました。守谷は東京通勤者の在宅勤務が要請されてきたことも要因かもしれませぬ。学校は夏休みの延長やオンライン授業で在宅時間が更に延長されています。

そんな中で、立沢里山の会では安全安心に遊べる里山を検討しました。

田んぼの水管理を会員の当番制にするなど、平日でもできるだけに誰かが里山管理で常駐する機会を作るように工夫しました。安全性を確保するために、草刈りやゴミ拾いを

今年の夏は特に暑い日が続いたので、子供たちはあまりにも冷たすぎる湧水プールに驚きながらも、水遊び、虫捕りなど楽しく過ごしてもらえました。中には近隣の市町村からわざわざ遊びに来る家族もいました。

### 目次

1. コロナ禍の里山
2. 立沢里山の稲刈り
3. 課外授業でサツマイモ堀と自然観察会
4. マコモの収穫
5. 稲わら妖怪

ボランティア募集  
あなたも一緒に楽しみましょう!



冷たい湧水プール



子供達の川遊び

## 守谷里山ネットワーク

〒302-0119

守谷市御所ヶ丘 5-25-1 守谷市民活動支援センター

☎ 0297-46-3370

メール [denen21@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:denen21@ktb.biglobe.ne.jp)

ホームページ [「野に集い野に遊ぶ」](http://www.7b.biglobe.ne.jp/~noasobi/)

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~noasobi/>

守谷市では、多くのボランティア団体が各地で、手作りによる里山づくりを行っています。何か地域で活動してみたい/自然と関わりのある活動してみたい/子供たちの遊び場を作ってみたい/みんなで楽しく汗をかいてみたいそんな思いをお持ちの方は、ぜひこの機会にご一緒に活動してみませんか。

## 二. 立沢里山の稲刈り

北守谷の3小学校で行っている「田んぼの学校」は、春の田植えはコロナが小康状態だったことから、五月中旬に三密を避けて分散開催方式で実施しました。

秋の稲刈りについては、コロナ緊急事態宣言が九月十二日までとされていたことから、夏休みとコロナ宣言が明けた直後の九月十五日からと設定していました。

ところが、緊急事態宣言が九月末まで延長され学校もオンライン授業となっていました。

収穫時期は稲の登熟状態から決



稲刈りを見守る案山子



畔のヒガンバナ

められるので、これ以上の遅延は困難と判断し大人だけで実施することになりました。

今年はお盆あたりまでは猛暑で

したが八月後半から降雨が多く、田んぼの排水が不良で、農家も稲刈りが難しい状況でした。

里山はもともとが排水不良で地盤が悪いことから、田内排水路を急遽掘り、少しでも作業しやすいように改善しましたが、足場はなかなか改善しません。

九月十一日(土)に里山の会と市内有志の皆さんの協力を頂いて稲刈りを実施しました。

昨年は土日の二日間かかりましたが、皆さんの奮闘で一日で終了することができました。

ただ足場の悪い田んぼで終日奮



脱穀風景

けした稲は、その後晴天に恵まれ乾燥状況もよくなってきたので、祝日秋分の日(九月二三日(木))に脱穀を行いました。

今年には堆肥投入なども行ったのですが、残念ながら収穫量は過去最低となりました。

原因はわかりませんが、里山倉庫前に一画を仕切り、バ

闘し、かなり疲労困ぼいでした。稲刈りをじっと見守っていた田んぼの案山子もホッとしました。

オダ掛



収穫祝いの里山バーベキュー



足踏み脱穀機に挑戦

ーベキューコーナーを整備して収穫の打ち上げをしました。里山で収穫した新米を精米して試食しました。子供達は春に田植した田んぼの稲刈りを楽しみにしていたのに参加できず残念でした。コロナに負けず元気に学校生活を送るようにとのエールを込めて、収穫米を九月二十七日(月)に各学校に配分しました。

また、今年には古代米の赤米を一面に試験栽培していましたが、十日程遅れて刈り取りました。

脱穀作業は少量なので小型の足踏み脱穀機を使用しました。皆で挑戦し、なかなか難しく慣れ

てくるまで悪戦苦闘しましたが、楽しい作業でもありました。



### 三. 課外授業でサツマ

### イモ堀と自然観察会

九月の稲刈りはコロナ緊急事態宣言の延長で、子供たちは参加できませんでした。十月になると急激に終息してきました。

御所ヶ丘小学校二年生が六月に植えたサツマイモは順調に生育し、十月下旬にはちょうど収穫時期となったことから、子供達と一緒に秋の収穫体験、自然体験として実施することになりました。十月二十八日(木)、当日は秋晴

大きな稲わら像と記念撮影



子供たちのサツマイモ堀

大騒ぎとなりました。芋ほりは順調に終わったので、高さ五メートルもある里山の稲わら像と記念

れの最高の天気にも恵まれました。まさしく天高く馬こゆる収穫の秋です。徒歩で移動中の十時頃に地震発生というハプニングがありました。したが問題はなく、皆元気に芋畑に到着しました。

里山の会から、説明を受けた後に早速芋ほり開始です。

各自数株ずつ手で掘り上げます。品種は「紅はるか」で、全体的に今年の出来具合は良好、土の中から出てきた抱えるほどの大きく紅色のサツマイモに歓声が上がります。持ってきた袋一杯に収穫し、徒歩では持って帰れそうもないので、学校まで里山の会が軽トラで運搬することにしました。

写真を撮り、

里山周辺の自然観察会を行いました。

今回のテーマは「実

りの秋」、山菜や農作物など里山周辺で食べられる植物を

中心に、現地を実物を見て歩きながら、立沢里山の会から説明を受けました。

道路沿いの柿木は熟した実で見事です。最初は湧水周辺のクレソンなど冬でも収穫出来ます。池の周辺にはミゾソバの花が満開、ナガエミクリ、タコノアシ、アギナシなど名前だけだと食べられそうですが、残念ながら食べられません。キノコなどには有害なものもあるので注意が必要です。

今回一番の話題となったのは「マコモ」でした。小川の中にびっしりと繁茂している大きな草を指さして、これは食べられるとの

里山で自然観察会



ことに皆びっくりです。もちろん草の葉を食べるわけではありません。里山の会が試験栽培しているマコモ圃場を案内してくれました。ちょうど収穫時期で、茎の下のほうが膨れていて、その部分を切り取って食べられるとのこと。

その他に、山菜として知られるセリ、フキ、ワラビやタラノメ、タケノコ、ミョウガ、ノワサビなど里山には農作物以外に沢山の食べられる植物があるのに驚いた様子でした。

「どうして里山というのですか」との質問があり、「里は人が住んでいる集落のこと。昔はスーパ―がなかったので、家の周辺に生活の衣食住に必要な植物を配置した。だから守谷は山がないのに里山がある。」、桑の木は蚕を育て、池のショウブは子供の日に使う。エゴマ、マコモなどは最近の健康志向で見直されているものもあり、自然の大切な役割を知る機会となりました。



### 四. マコモの収穫

今年の春に湧水を活用して開いた田んぼに、数種類のマコモを試験栽培してきました。

先人地視察で、かなり肥料が必要と聞いて、大木流作の農場から軽トラックで堆肥を運搬投入し、化成肥料も入れて世話をしたつもりでした。ところが、夏場を過ぎても成長はおもわしくありません。

ところが十月になると、あちこちとマコモダケが膨らんできました。どうやら草丈が大きいものだけにできるものでもないようです。十月十五日(金)には皆で集合し、収穫作業を行いました。

コンテナ一杯に収穫でき、その後も時期をずらして次々と出てくるので、



マコモダケの収穫



マコモのフライ

全体ではかなりの収穫量が期待できそうです。料理方法は、そのまま焼いて柚子胡椒で食べ

る方法が基本ですが、キンピラ、テン普拉やフライにしても美味しいです。

厚めに輪切すると、食べる際の見かけがホタテの貝柱で食感がタケノコに似ており、なかなかの料理になりました。

収穫後に、里山でバーベキューの準備をして、秋の味覚を楽しみました。

散歩で通りかかる人にも声をかけ試食してもらいました。ほとんどに人は名前すら知りませんが、地元の九十才の御婆ちゃんには知っており、懐かしいと食べていただきました。

### 五. 稲ワラ妖怪

昨年初めて製作した「稲わら妖怪アマビエ」は、かなり話題となりました。一年経ってかなり風化し、まさしく妖怪らしくなってきましたが、子供から迫力はあるが怖いとの声もありました。今年も稲刈りが終わり、新しい稲わらで再構築することにしました。

昨年は稲わらを下から順に積み上げたために、かなりの労力と時間がかかりました。今回は作業の簡易化をはかるために、竹と木でフレームをつくり、藁を張り付ける方式にしました。

笑顔の稲わらハロウィン



途中で藁が足りなくなり、後ろ半分ができない状態となりました。そこで、方針を変更し、時期的なハロウィン像にして、十月のひと月間展示することにしました。十月の下旬になると、マコモの収穫を行う予定なので、十一月にマコモの葉を活用して、新生アマビエに変身させる予定です。

#### 【編集後記】

守谷市内で里山活動に取り組んでいる皆さんからの情報提供が何よりも重要です。本紙への活動報告、行事の予告など記事をお寄せください。

こちらまで

メール⇒ [denen21@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:denen21@ktb.biglobe.ne.jp)